

2020年3月期第2四半期 決算説明会資料

～中期経営計画 NC2020 3年目の進捗について～

稲畑産業株式会社

代表取締役社長 稲畑 勝太郎

2019年12月3日

1. 会社概要	… P 3
2. 中期経営計画 <i>NC2020</i> について	… P 5
3. <i>NC2020</i> 3年目の進捗について	… P 8
4. 株主への利益還元	… P 18
5. 参考資料	… P 21

稲畑産業とは、

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大



稲畑染料店（京都・西陣）

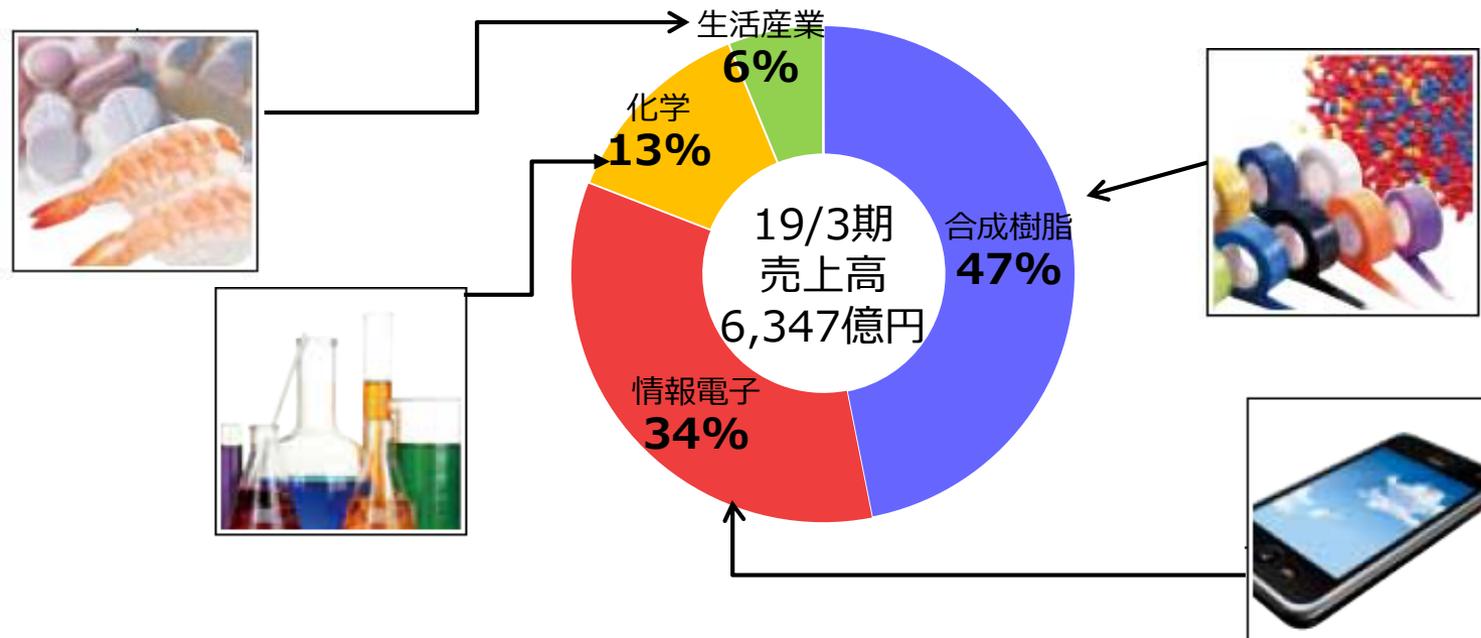
2. グローバルに複合展開する商社

世界17カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 4つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂の
4つの分野で事業を展開



(※) 住環境事業は、2019年4月より化学品事業に統合しました。上記の化学品事業の比率は統合した数値を記載しています。

■ 中期経営計画

「*New Challenge 2020*」について
(略称 *NC2020*)

2021年3月期を最終年度とする4年間の中期経営計画

定量目標	2021年3月期
売上高	7,300億円
営業利益	155億円
経常利益	160億円
親会社株主に帰属する 純利益	120億円
ネットD/Eレシオ	0.4以下
想定為替レート	USD1=110円

【重点施策】

1 海外事業の更なる拡大と深化

2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフインフラ・医療、環境・IT分野へ引き続き注力
- ・農業を含む食品分野への新たな展開

3 グローバルな経営情報インフラの高度化

- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたマイリティ投資の実施
- ・リスク・金額を限定したマジョリティ投資の検討

5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

6 グローバル人財マネジメントの確立

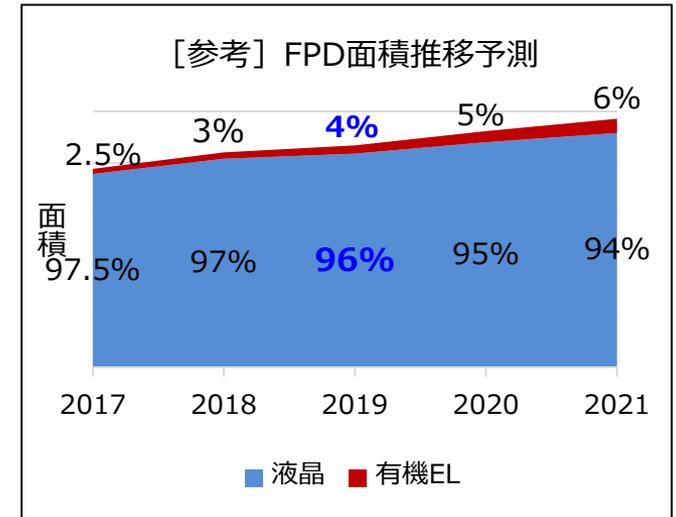
- 中期経営計画 *NC2020*
3年目の進捗について

- 液晶パネル市場は、TVの大型化を背景に面積ベースで緩やかに成長
- 中小型の液晶パネルの中国市場は、ファーウェイショックの影響あり
- 有機ELパネルは成長続くが面積ベースでは限定的



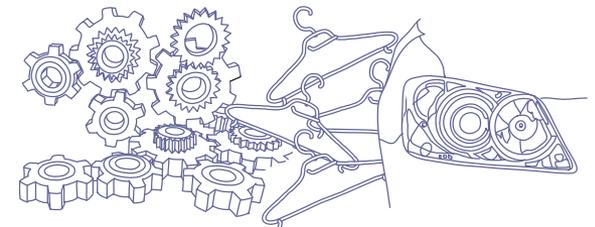
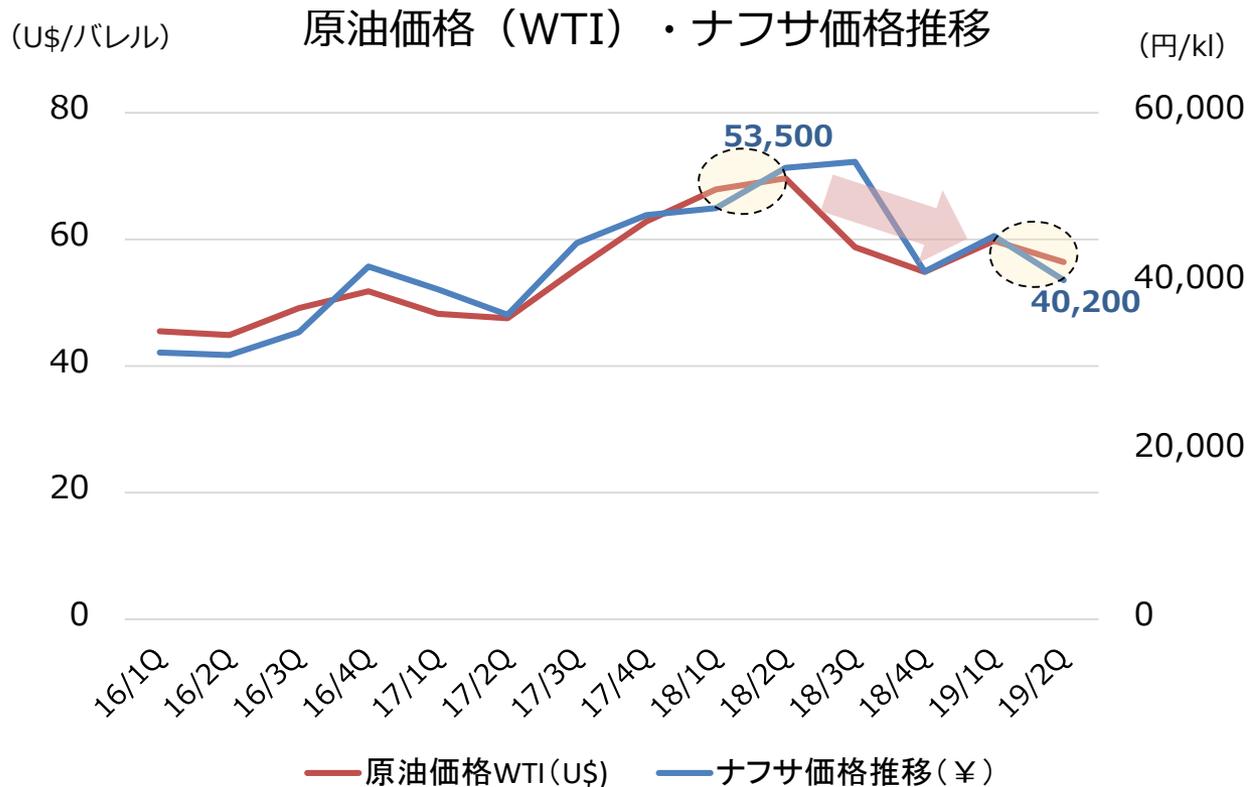
[参考] 大型液晶パネル 面積ベース推移予測

	2017年	2018年	2019年 (予)
対前年比 (%)	105%	108%	103%



(※) 参考の推移予測は、各種資料より当社推計

- 原油価格下落に伴い、樹脂単価は下落傾向
- 米中貿易摩擦響により、中国から北米向け輸出ビジネスに大きく影響
日系、台湾系、韓国系の電子部品メーカー等の東南アジアへの生産移管進む

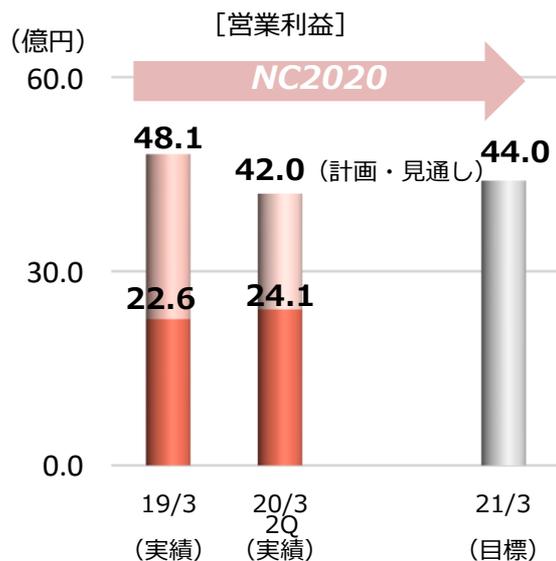


(※) 19/2Qナフサ価格は7月～8月 (速報値) 数値から計算

■ 利益面は計画値に対して順調

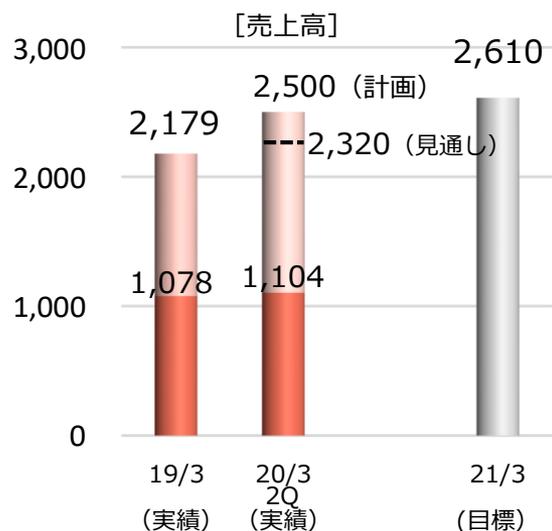
	2019年3月期 2Q実績	2020年3月期 2Q実績	2020年3月期 見通し (A)	NC2020 2020年3月期 計画 (B)	計画達成 見込み (A)/(B)%
売上高	3,224億円	3,076億円	6,700億円	7,000億円	96%
営業利益	71億円	71億円	145億円	145億円	100%
経常利益	71億円	79億円	145億円	150億円	97%
当期純利益	62億円	67億円	110億円	110億円	100%
裨トD/Eレシオ	0.28	0.20	—	0.4以下	順調
自己資本比率	44.5%	45.9%	—	—	—
為替レト	USD1=110.26円	USD1=108.60円	USD1=110.00円	USD1=110.00円	—

(※) 裨トD/Eレシオ=(有利子負債-現預金)/自己資本



(億円)	19/3期2Q 実績	20/3期2Q 実績	20/3期 見通し (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	計画達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	22.6	24.1	42.0	42.0	100%
営業利益率	2.1%	2.2%	1.8%	1.7%	—
売上高	1,078	1,104	2,320	2,500	93%

■ 20/3期 営業利益の計画達成に向けた進捗 ⇒ **順調**
 液晶関連の好調が欧州事業再編による利益減をカバー



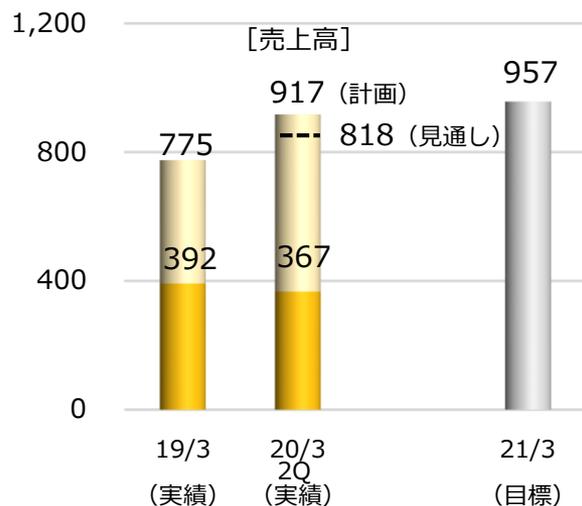
実績・計画差異の主な要因	
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> 中国での偏光板販売の伸長 (+) 偏光板原料の販売好調 (+)
売上高	<ul style="list-style-type: none"> 欧州子会社における太陽電池関連取引中止 (-)

NC2020 各事業の進捗状況 ② 化学品事業

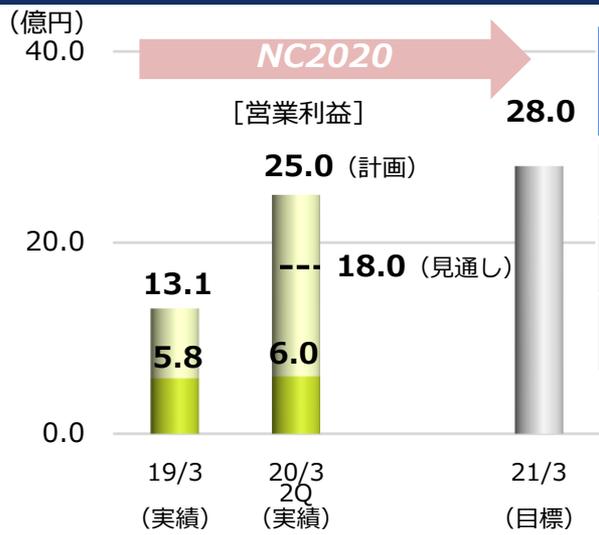


(億円)	19/3期2Q 実績	20/3期2Q 実績	20/3期 見通し (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	計画達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	8.4	6.7	17.0	20.0	85%
営業利益率	2.2%	1.8%	2.1%	2.2%	—
売上高	392	367	818	917	89%

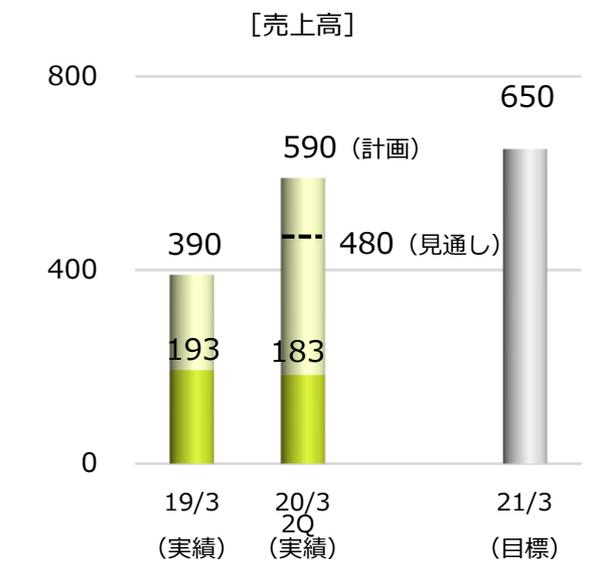
■ 20/3期 営業利益の計画達成に向けた進捗 ⇒ **未達**
 統合した旧住環境事業の低迷が計画未達の主因



	実績・計画差異の主な要因
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> 旧住環境事業の低迷 (-) 中国での環境規制の影響 (-) 放熱材関連の原材料の伸長 (+)
売上高	<ul style="list-style-type: none"> 旧住環境事業の低迷 (-) 欧州子会社取引の見直し (-)

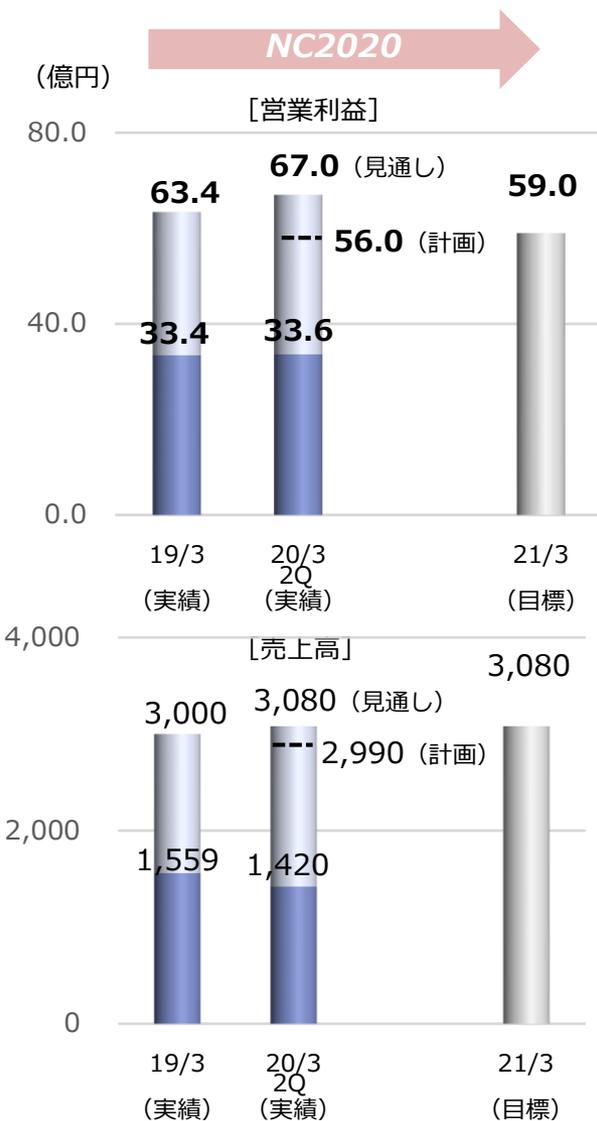


(億円)	19/3期2Q 実績	20/3期2Q 実績	20/3期 見通し (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	計画達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	5.8	6.0	18.0	25.0	72%
営業利益率	3.0%	3.3%	3.8%	4.2%	—
売上高	193	183	480	590	81%



■ 20/3期 営業利益の計画達成に向けた進捗 ⇒ **未達**
 子会社へ商権を移管した食品関連の経費先行と
 新規ビジネスの開発遅れが主因

実績・計画差異の主な要因	
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> 食品関連の新規ビジネスの先行費用 (-) 医薬原料関連の販売サイクルの影響 (-) 殺虫剤原体の販売低調 (-) フランス医薬・化粧品関連子会社収益貢献 (+)
売上高	<ul style="list-style-type: none"> 欧州子会社で計画した食品ビジネスの中止 (-) 食品関連の新規ビジネスの遅れ (-)

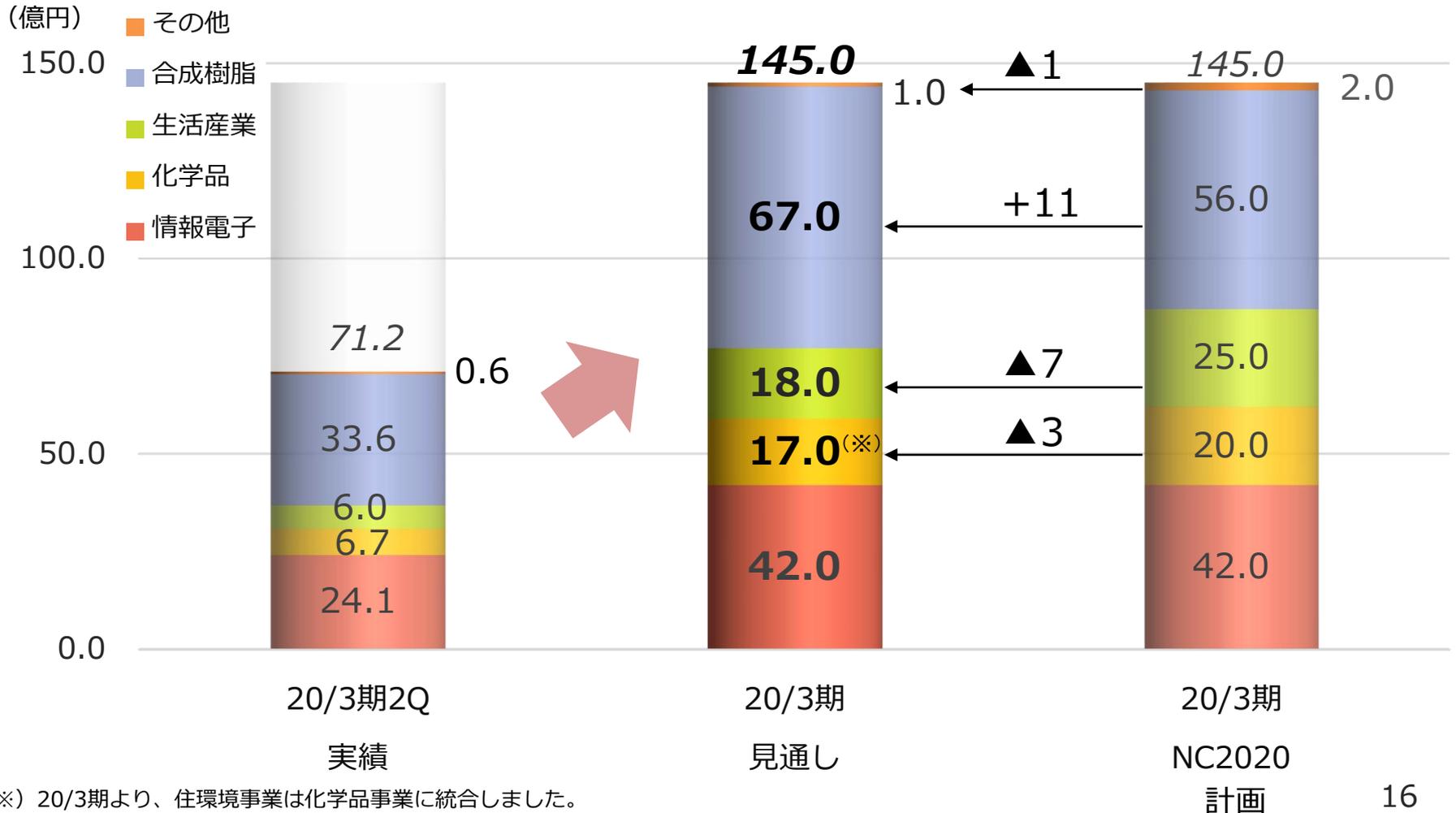


(億円)	19/3期2Q 実績	20/3期2Q 実績	20/3期 見直し (A)	NC2020 20/3期 計画 (B)	計画達成 見込み (A)/(B)%
営業利益	33.4	33.6	67.0	56.0	120%
営業利益率	2.1%	2.4%	2.2%	1.9%	—
売上高	1,559	1,420	3,080	2,990	103%

■ 20/3期 営業利益の計画達成に向けた進捗 ⇒ **順調**
高機能樹脂の販売増による利益率の改善が主因

実績・計画差異の主な要因	
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> 高機能樹脂の販売増による利益率の改善 (+) インド子会社が収益に貢献 (+) メキシココンパウンド拠点は改善が進むも、利益面では苦戦 (-)
売上高	<ul style="list-style-type: none"> 樹脂価格の下落 (-) 中国の景気減速の影響 (-)

■ 合成樹脂の進捗で化学品（旧住環境）と生活産業の未達分をカバーして営業利益の計画値達成を目指す



商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

(億円)

	19/3期 実績	20/3期 2Q実績	NC2020 18/3期～累計
成長投資	23.1	4.4	66.2
定常投資	20.3	12.5	48.7
合計	43.4	16.9	114.9

■ 20/3期2Q 主な成長投資

- [情電] 出資 0.5 (バイオ機器関連)
- [合成] 設備等 1.2 (インフレ関連)
- 設備等 1.0 (グループ会社)
- 設備等 0.5 (コンパウンド関連)

(※) 19/3期の成長投資実績は一部修正しています。

■ 株主への利益還元

利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

1株当たり配当金：

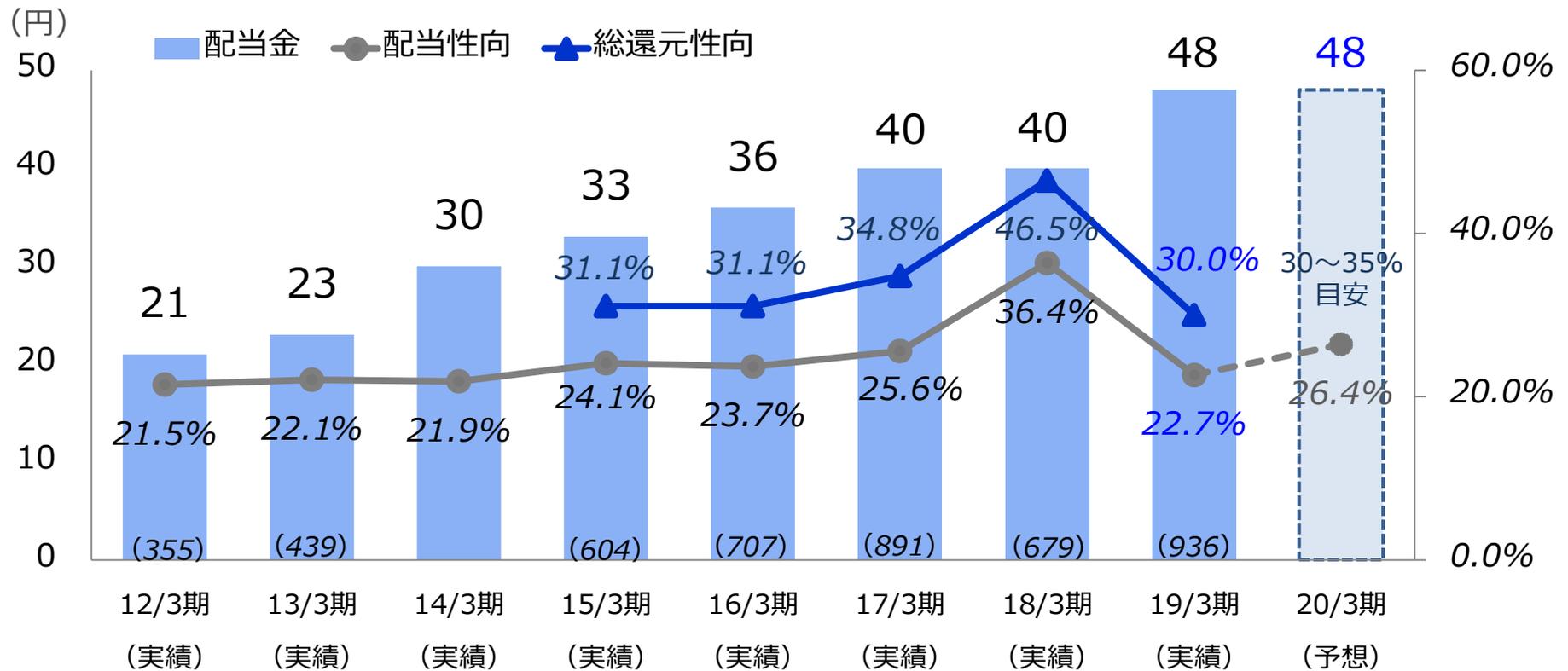
■ 2020年3月期

中間配当金 20円 (実績)

期末配当金 28円 (予想)

年間配当金 48円 (予想)

1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移

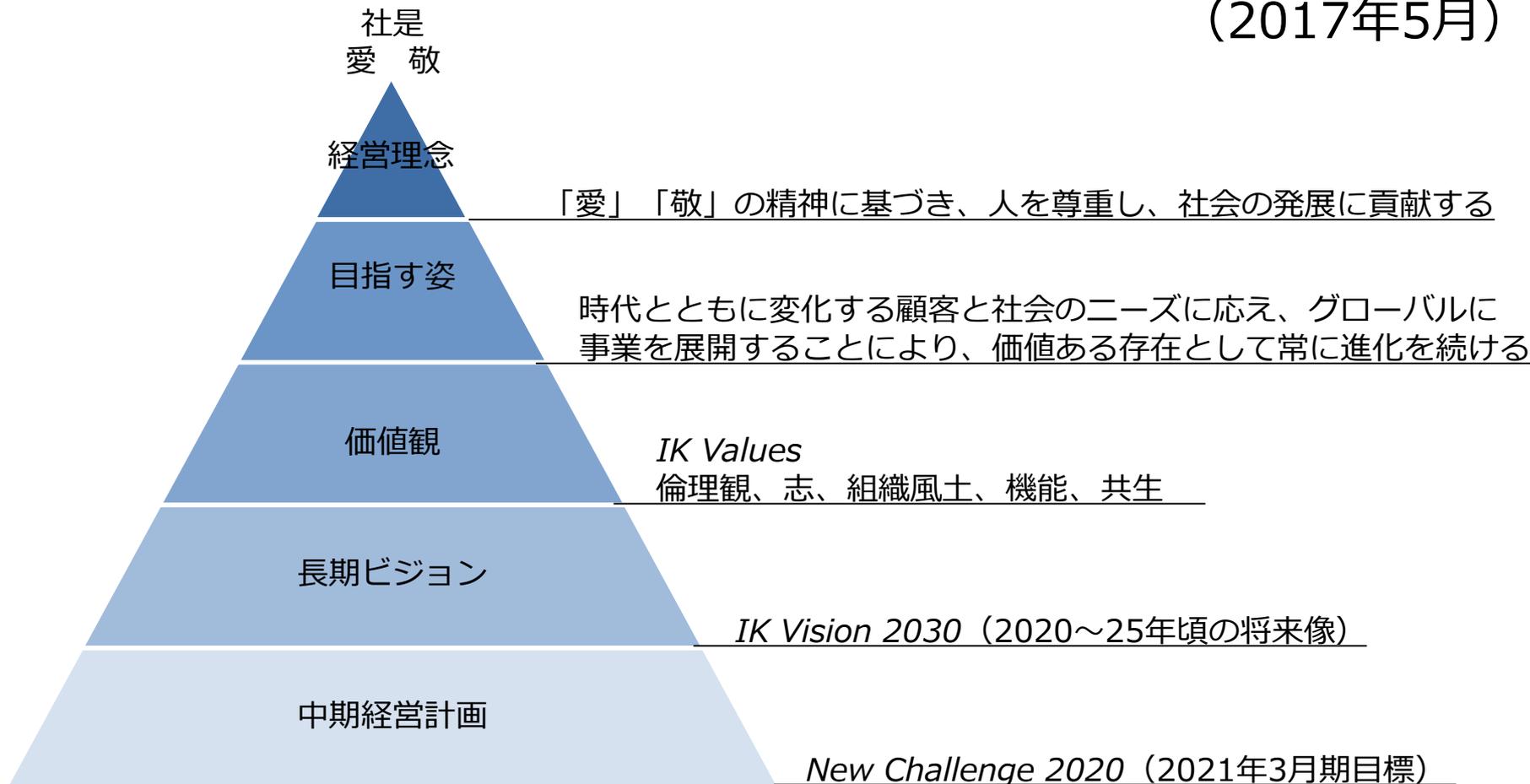


(※) 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

■ 参考資料

1.	中期経営計画「NC2020」の位置づけ	… P 23
2.	長期ビジョン「IK Vision 2030」	… P 24
3.	NC2020 事業環境・事業戦略	… P 25
4.	NC2020 セグメント別売上高・営業利益推移	… P 27
5.	売上高・営業利益推移	… P 29
6.	海外の売上高・営業利益推移	… P 30
7.	NC2020 事業別3年目の計画と見通しの差異	… P 31
8.	成長が見込める市場・未開拓分野への注力	… P 33
9.	海外事業の更なる拡大と深化	… P 37
10.	ガバナンスの強化	… P 39
11.	グローバル人財マネジメントの確立	… P 40
12.	1株当たりの当期純利益	… P 41
13.	樹脂コンパウンドの年間生産能力	… P 42
14.	会社概要	… P 43

◆中期経営計画策定にあたり、当社が目指す長期ビジョンを策定 (2017年5月)



◆2025～2030年頃を念頭に、将来像を想定

機能 : 商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイナ等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感 : 連結売上高 1兆円以上を早期に実現

海外比率 : 70%以上

ポートフォリオ : 情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

[2017年5月策定]

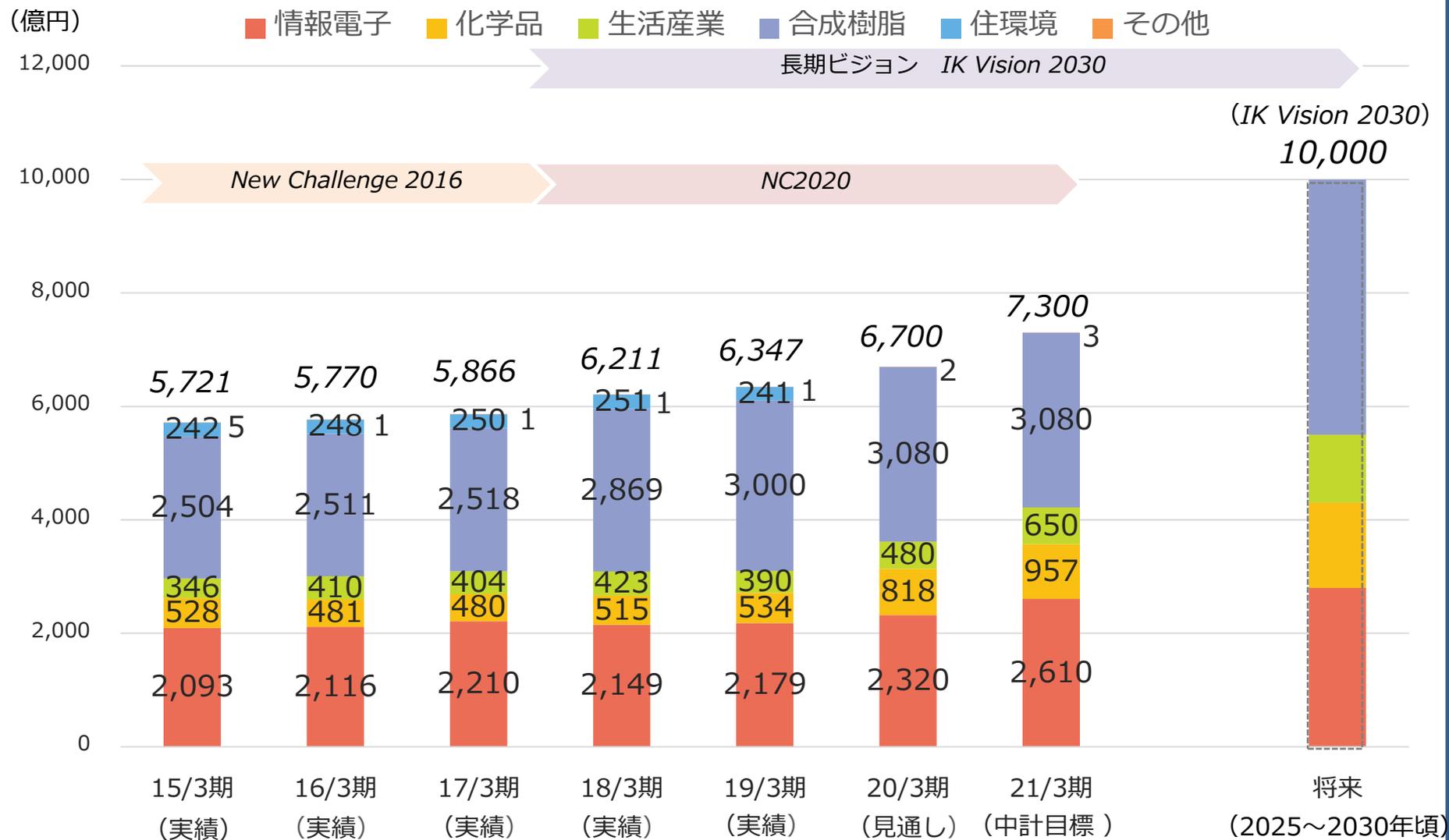
事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶関連は中期的に微増、パネル生産は中国へのシフトが続く 複写機・プリンターは成熟産業だが、産業用に成長の余地あり 太陽光発電は、日本では期待薄だが、海外で成長が続く
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 国内の既存マーケットは変化が少なく、当社が扱える商材の市場も限定的 外資系化学メーカーが、日本市場において営業を商社に任せる動きあり
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 医薬は、新薬市場と再生医療が緩やかに成長 ホームプロダクツは、国内市場が飽和状況、新興国市場は拡大 食品は、先進国では健康、安全志向へ、新興国では食の消費増進む
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 顧客・サプライヤー共にグローバル化の動きが加速 グローバル対応が可能な商社への集約化選別が進む
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 新設住宅着工件数は減少が続く見通し リフォーム市場は拡大 大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカーの海外進出加速

[2017年5月策定]

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶ビジネスは、中期計画の期間中、引き続き主力事業として収益の維持を図る 長期的に、現主力事業の成長鈍化も想定して、新規ビジネスの拡大に注力
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品業界の更なる深堀り 自動車業界をメインとしたコーティングビジネスの拡大 外資系化学メーカーとの取り組みを強化
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 新薬・原料ビジネスは、有望テーマを拡充。先端医療分野に最注力 ホームプロダクツ・食品は、海外を含めた市場拡大による売上拡大を図る 食品では、生産者ポジションと加工業への進出を進める
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> コンパウンド事業を武器に樹脂の販売を拡大 自動車分野と特に北米市場に注力
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 海外市場への拡販 非住宅分野へ注力

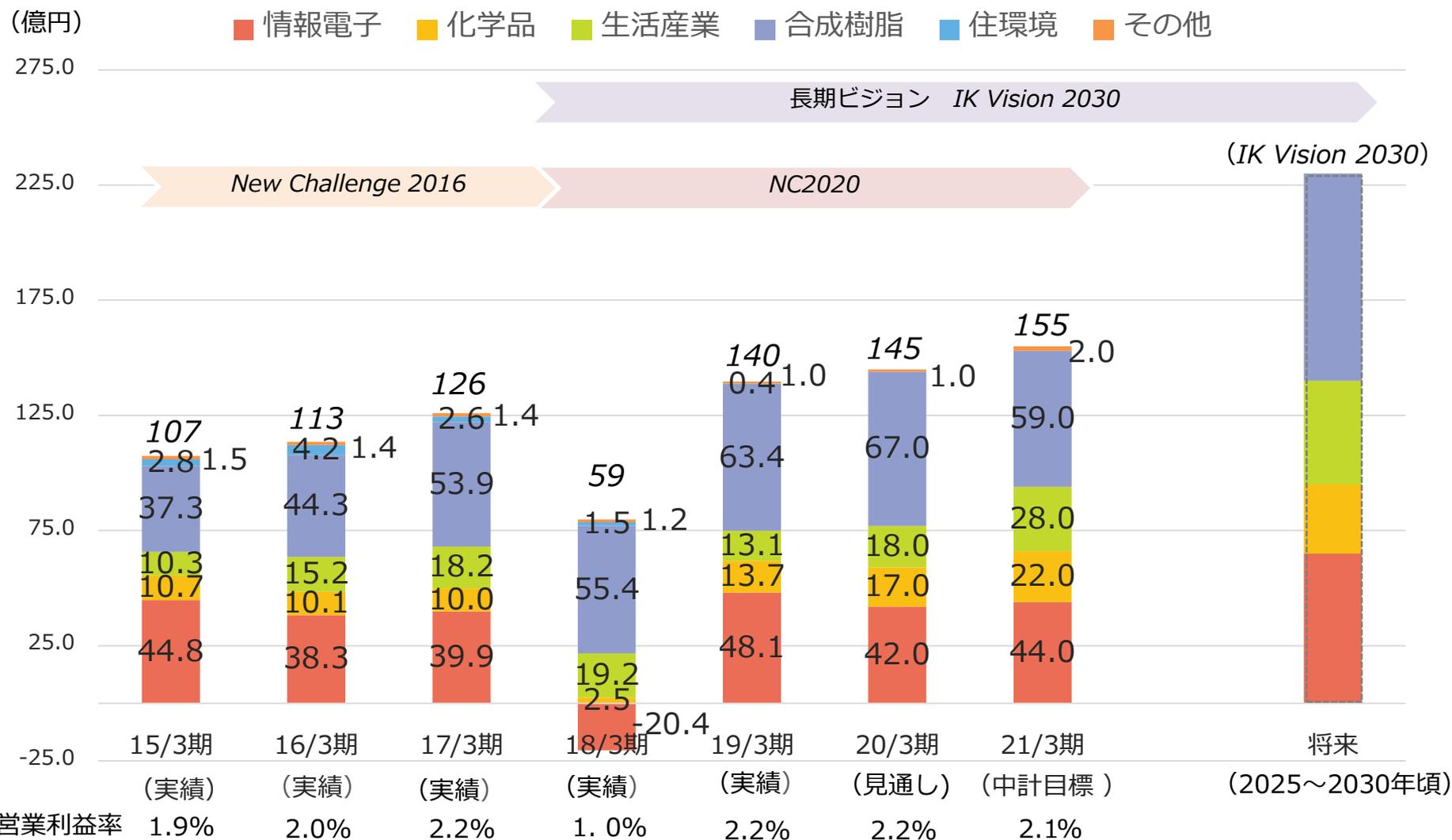
[2017年5月策定]

【参考】NC2020 セグメント別 売上高推移



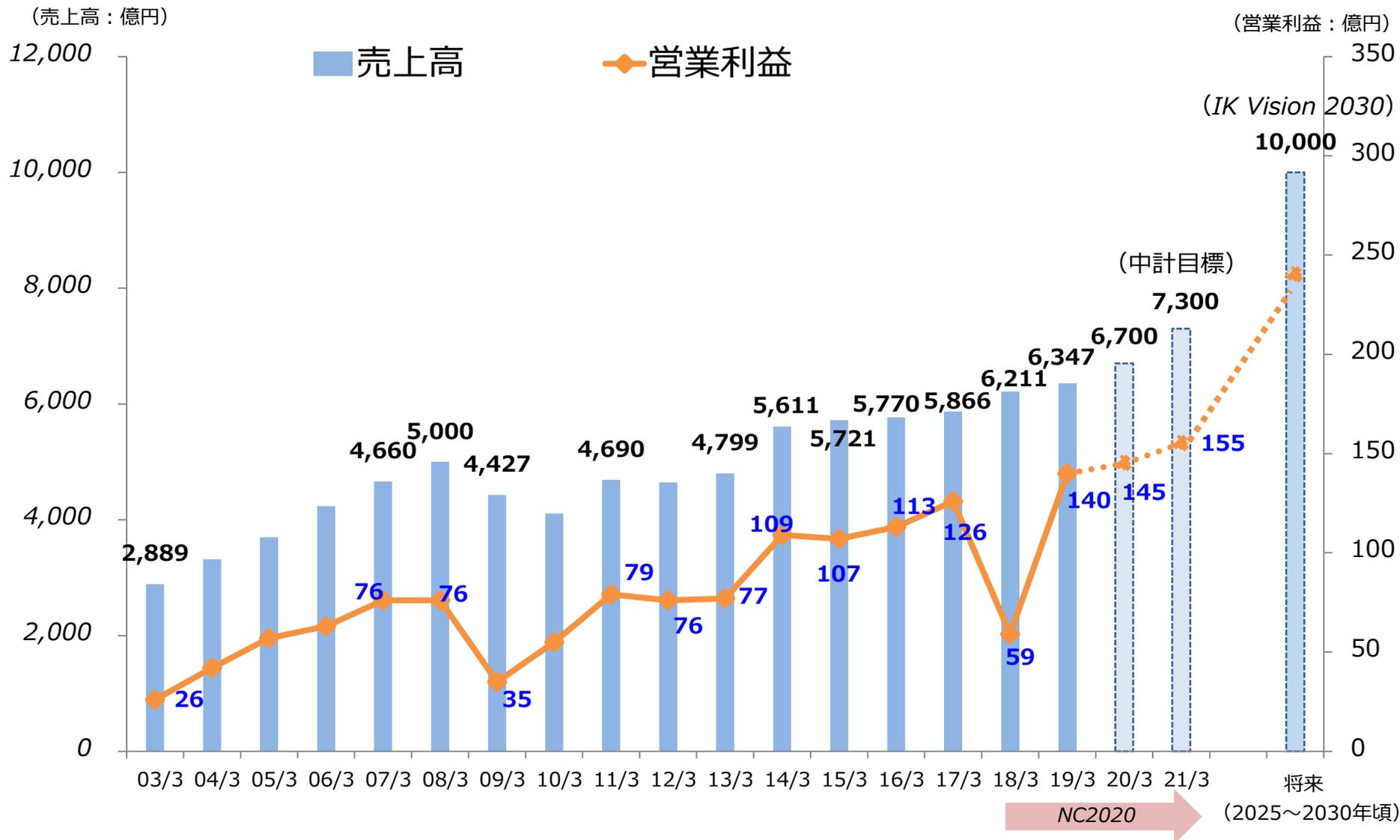
(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

【参考】NC2020 セグメント別 営業利益推移



(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。

【参考】売上高・営業利益推移



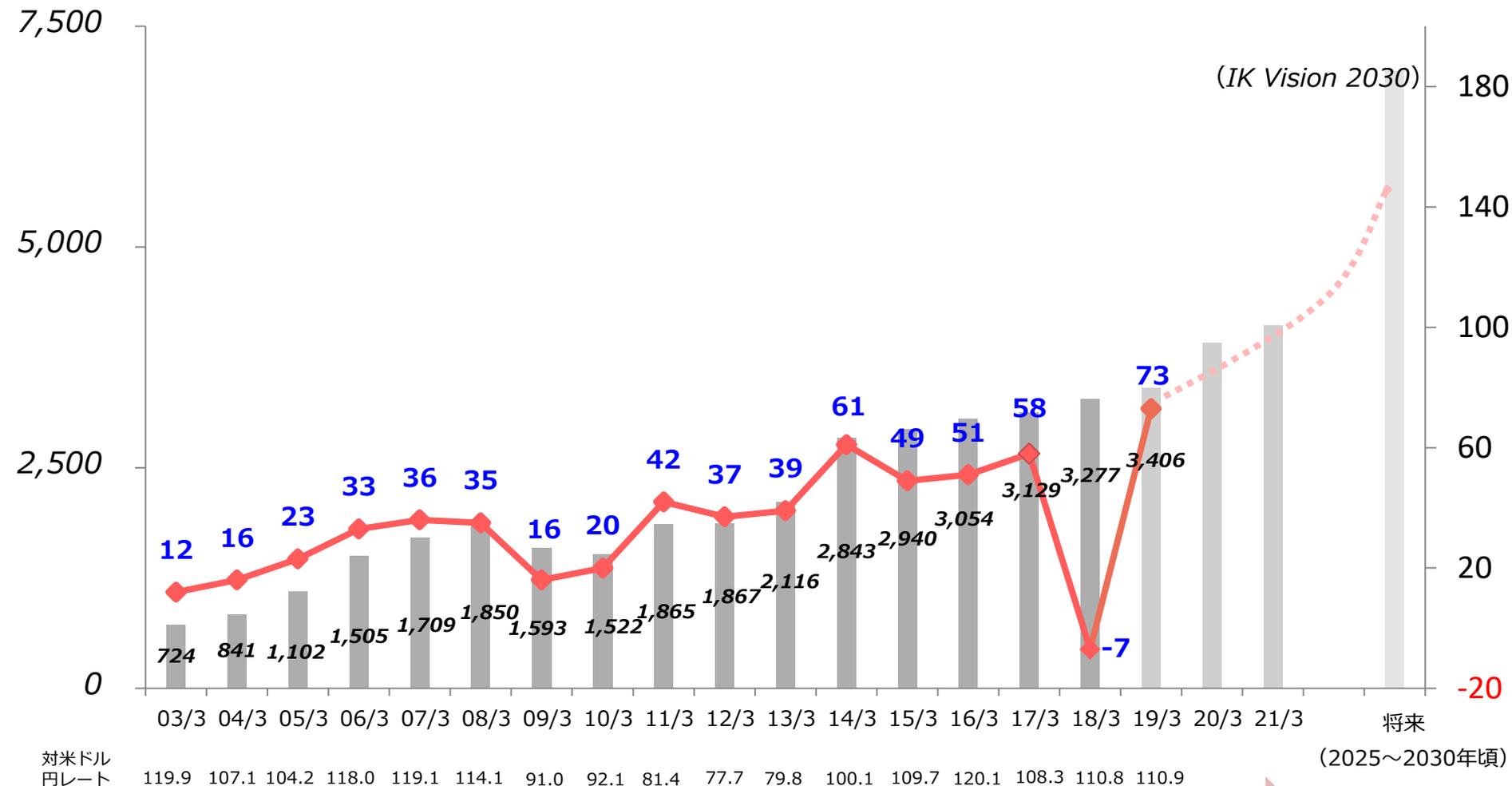
【参考】海外の売上高・営業利益推移



(売上高：億円)

■売上高 ◆営業利益

(営業利益：億円)

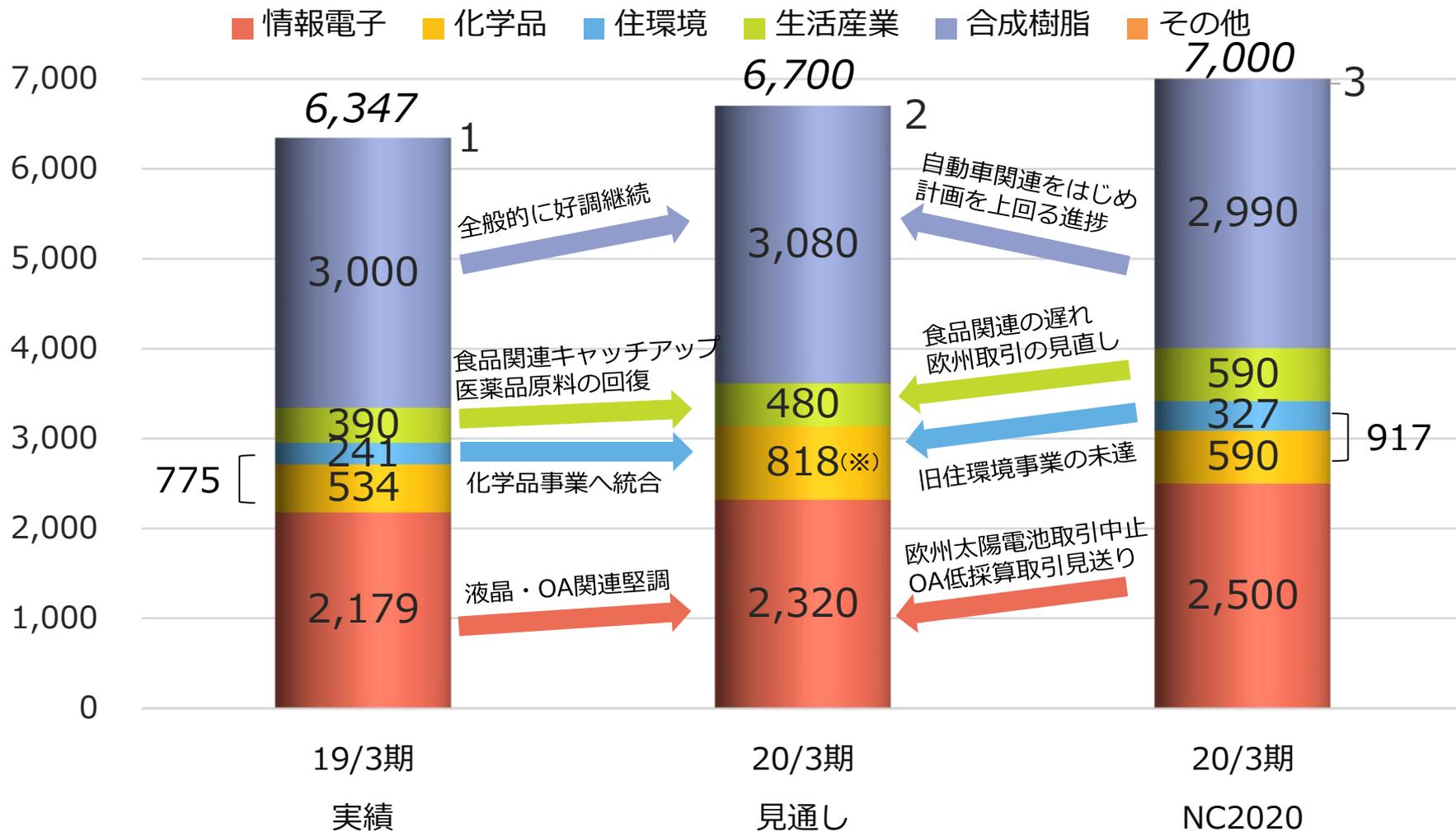


対米ドル円レート

NC2020

【売上高】

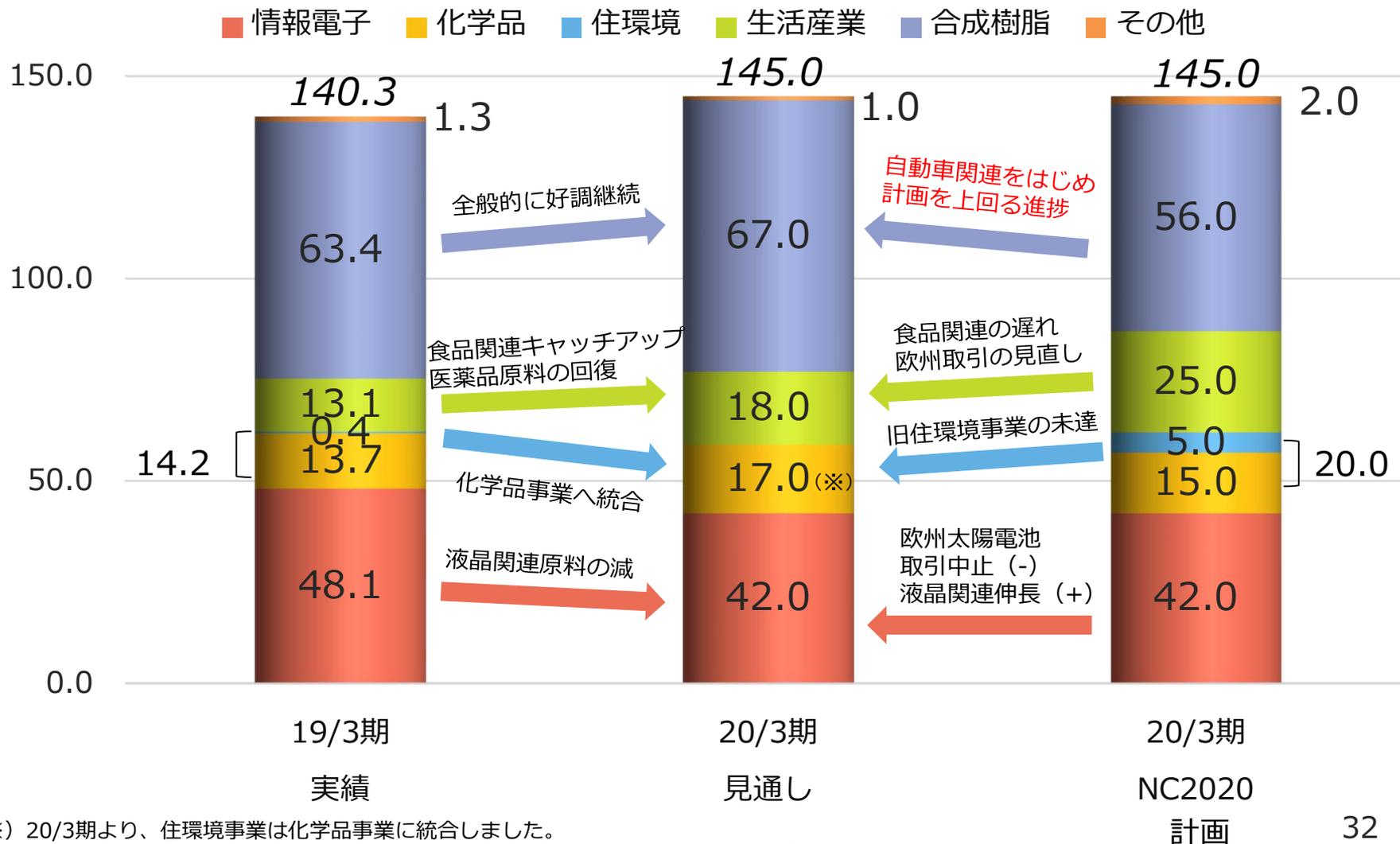
(億円)



(※) 20/3期より、住環境事業は化学品事業に統合しました。
 20/3期の化学品事業の内訳は、旧化学品事業 568億円、旧住環境事業 250億円

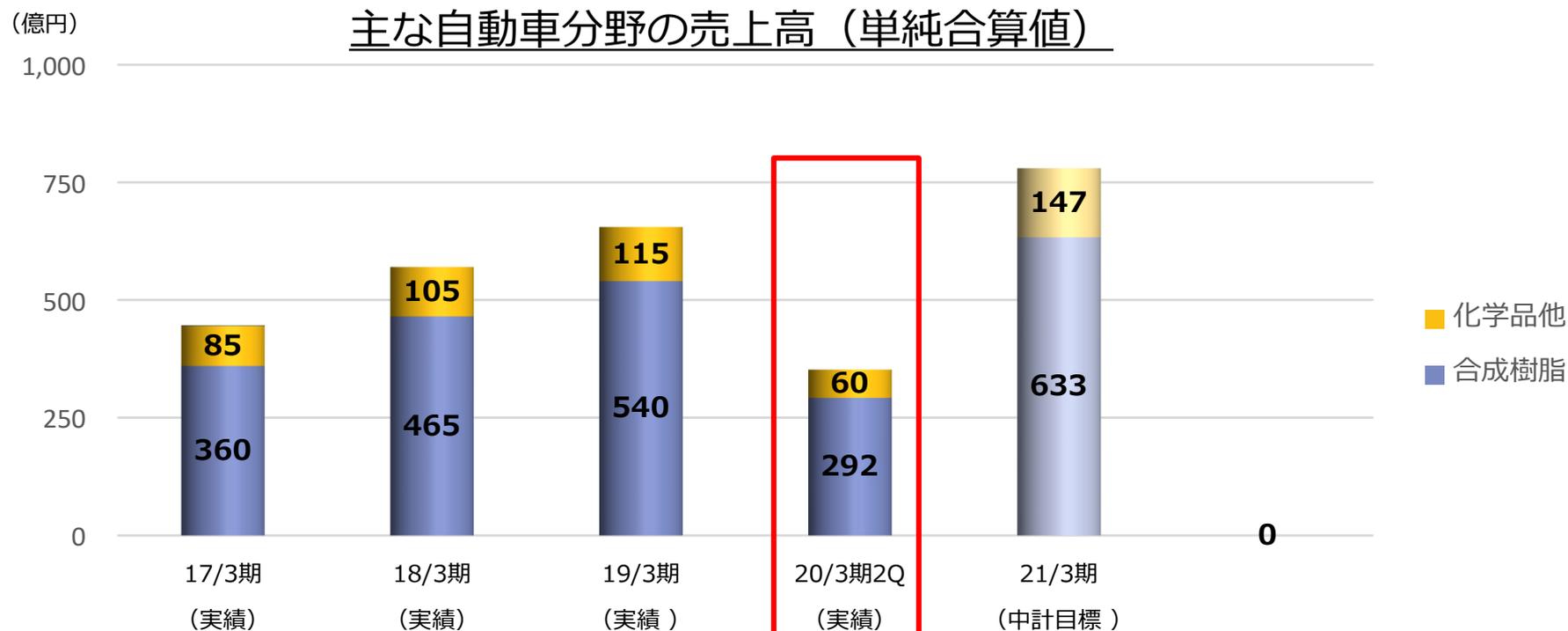
【営業利益】

(億円)



自動車分野への主な取り組み

- 【合成】グローバルユーザーへの樹脂の拡販進む。海外から国内取引へ
中国市場は低迷するも、日系自動車メーカー向けは堅調
- 【化学】部品・塗料原料の拡販、放熱材原料・製品の販売に注力
- 【情電】加飾フィルム関連の販売

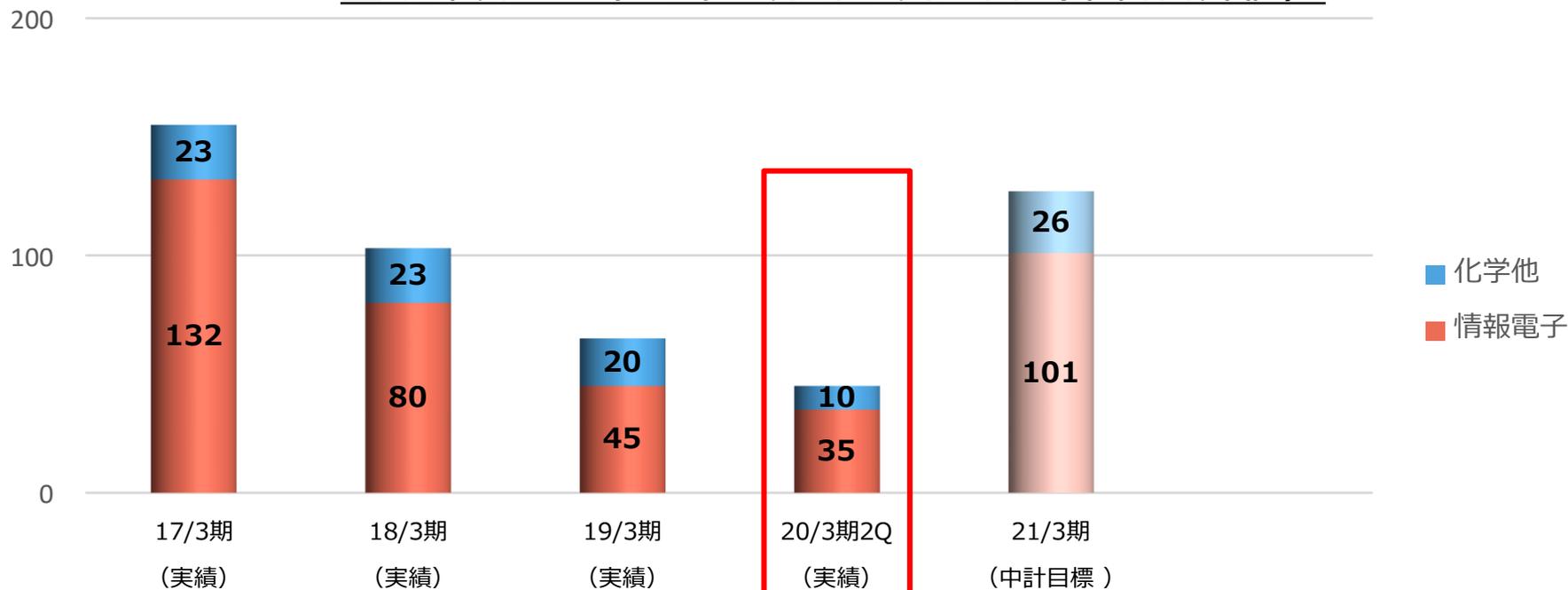


(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。
 (※) 20/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

環境・エネルギー分野への主な取り組み

- [情電] 太陽電池は欧州子会社での取引中止により大幅減だが、高付加価値の材料販売とシステム販売に注力
リチウムイオン電池は韓国の電池メーカーへの材料販売が伸長
- [化学] 木質チップとパーティクルボードの販売に注力

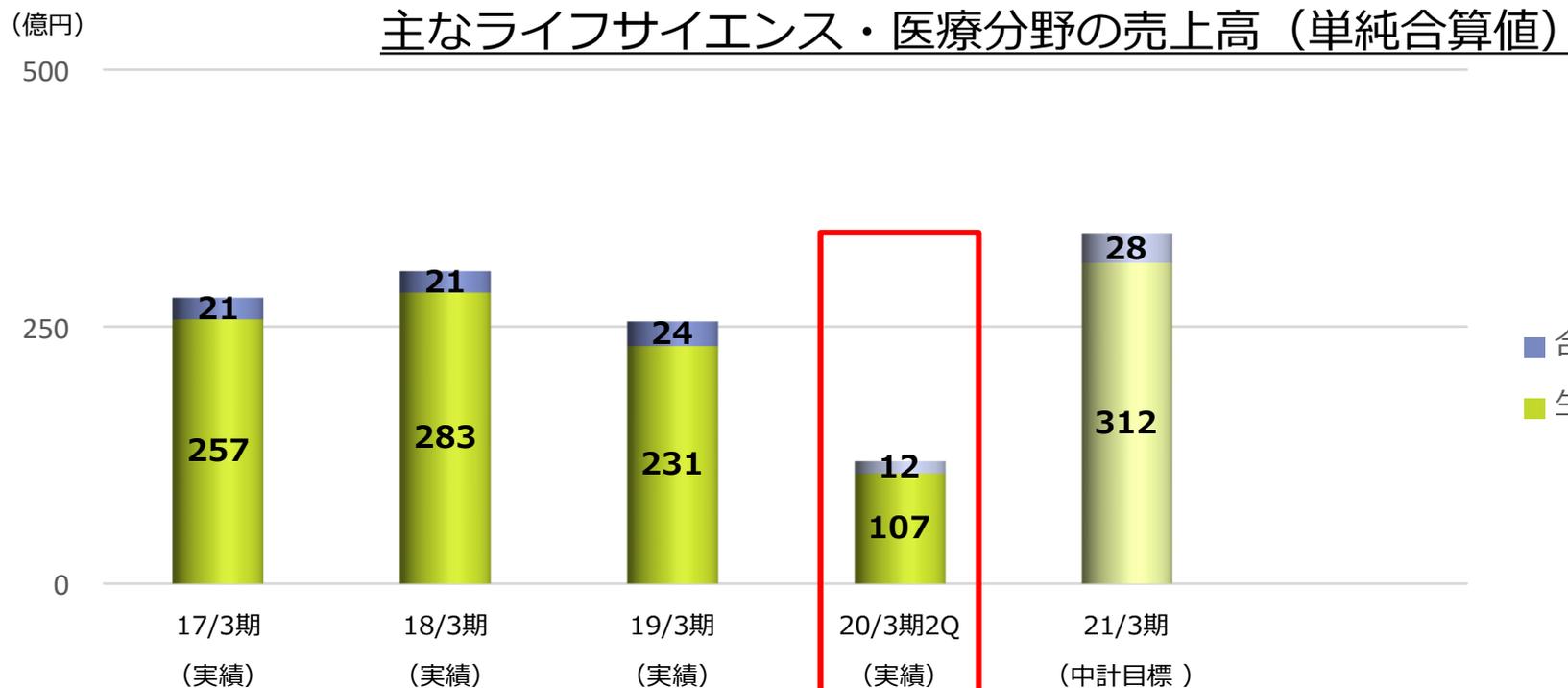
(億円) 主な環境・エネルギー分野の売上高 (単純合算値)



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。
 (※) 20/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

ライフサイエンス・医療分野への主な取り組み

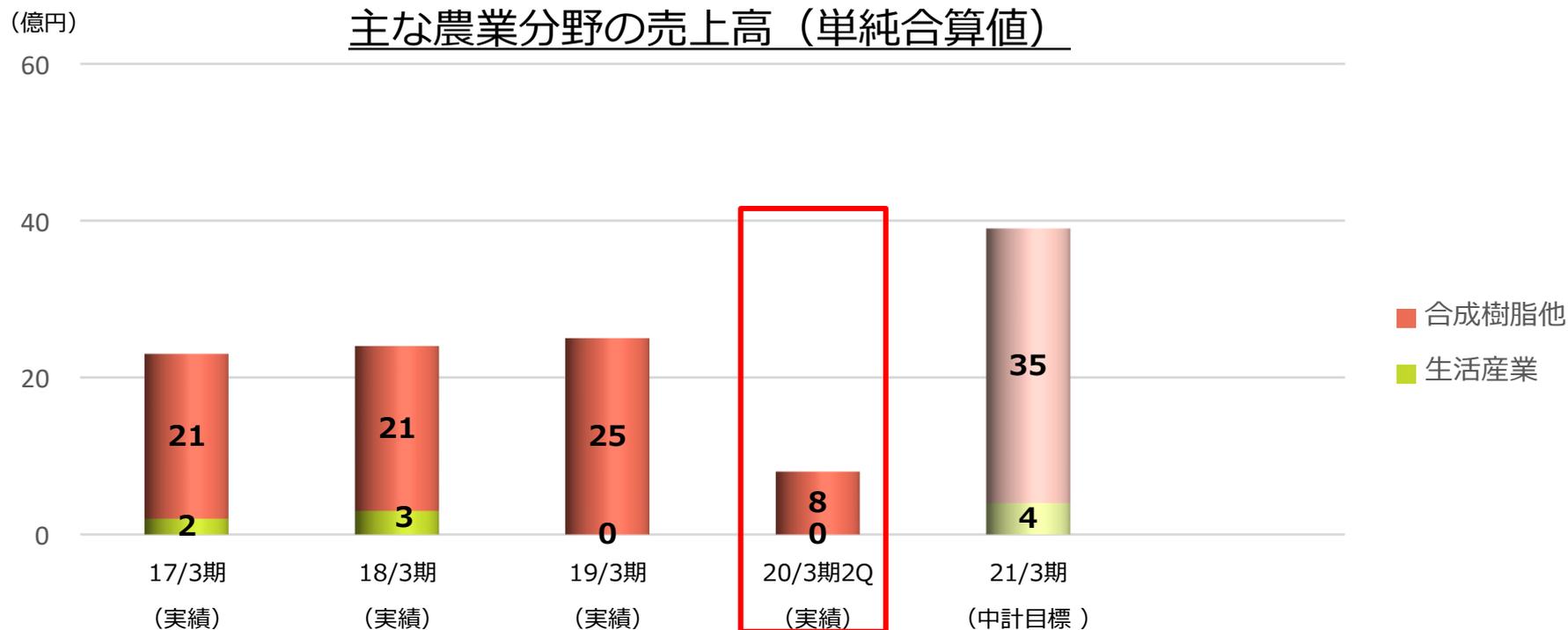
- 【生活】医薬品原料（原薬・中間体）の販売が伸長するも
中国の環境問題による供給不安や先端医療分野の販売遅れあり
ホームプロダクツは日本製商品の海外販売に注力
- 【合成】医療機器メーカー（シリンジ用など）への樹脂の販売



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。
 (※) 20/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

農業分野への主な取り組み

- [生活] 北海道でのブルーベリー、ニンニクを中心とした栽培事業を推進
ブルーベリーは今期初出荷、少量ながら品質高評価
- [合成] 農業用フィルム（防曇など）の販売に注力
- [情電] 飼料（輸入牧草）の販売が伸長



(※) 過年度の実績値について、一部最新の数値に修正しています。(※) 冷凍品の販売は上記数値に含んでおりません。
 (※) 20/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

【参考】 海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [メキシコ・自動車向け 🚗]

2020年3月期2Qは、日系自動車メーカーの新モデル生産に調整が入り、計画を下回る。下期は復調の見通し

2019年3月期	販売実績	6,700トン
2020年3月期2Q	販売実績	4,300トン
2020年3月期	販売見通し	9,600トン



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力 : 15,000トン/年
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ
2013年11月稼働、2014年9月より量産開始

【参考】 海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [フィリピン・O A向け ]

2020年3月期2Q は主要顧客の生産低調により販売が伸び悩む
下期は二輪向けビジネスがスタート

2019年3月期	販売実績	10,200トン
2020年3月期2Q	販売実績	4,600トン
2020年3月期	販売見通し	9,600トン



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力 : 10,800トン/年
所在地 : フィリピン ラグナ州
2014年7月商業生産開始

取締役会評価について

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

2018年3月期

第三者評価を実施

⇒ 2018年5月 評価の概要と今後の対応を開示

2019年3月期

全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施

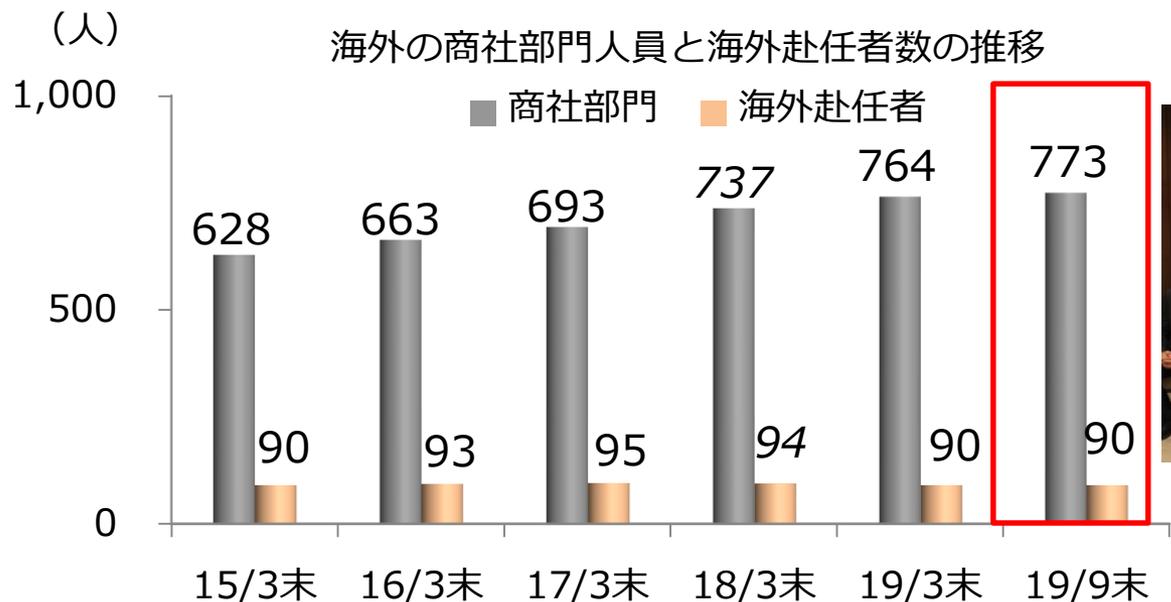
⇒ 2019年4月 評価の概要と今後の対応を開示

2020年3月期

全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施予定

人員の充実と共に、質的な面での強化育成を加速

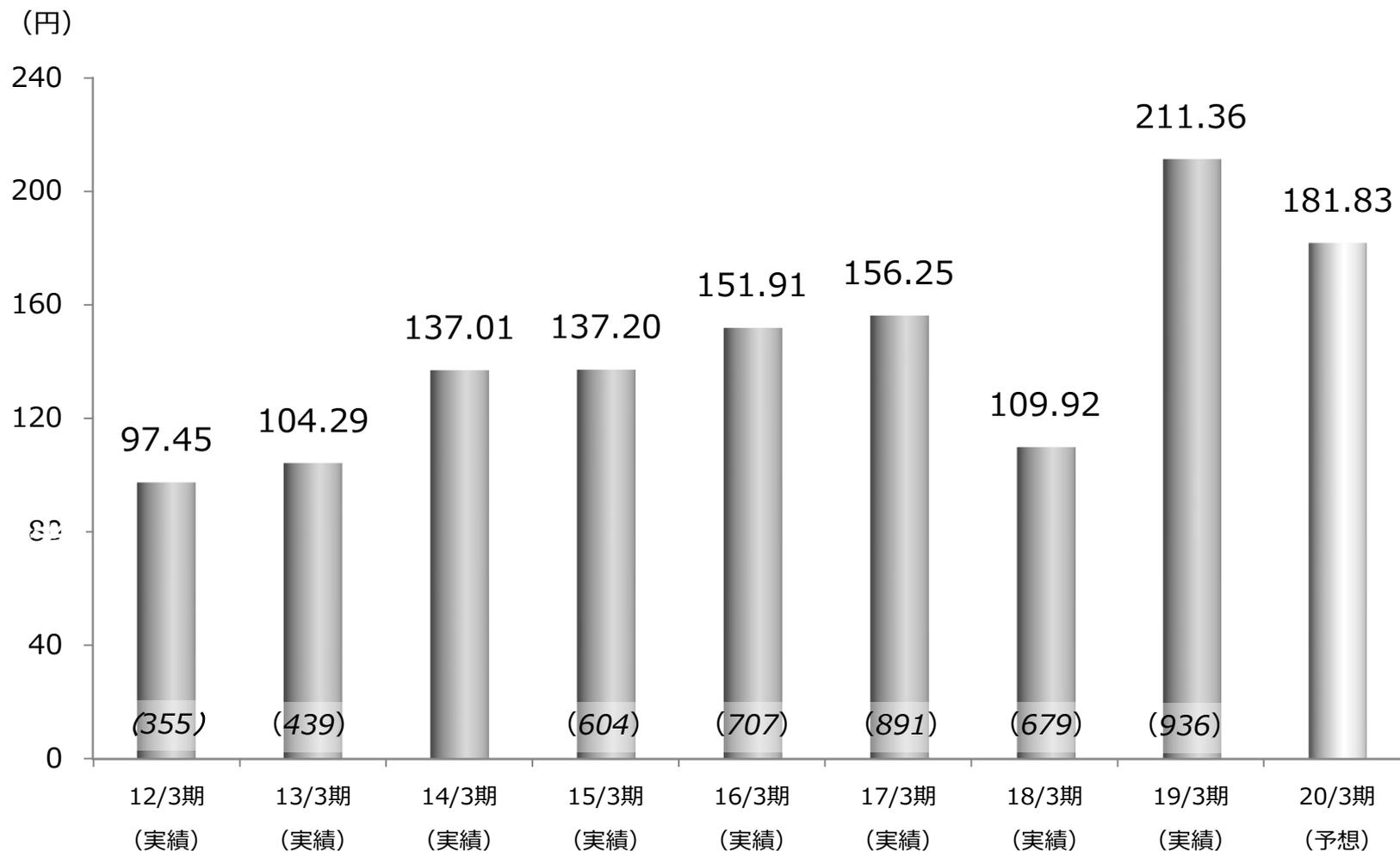
- ✓ 3カ国4拠点において「IK Values」浸透のためワークショップを実施
2018年よりスタートして海外14カ国36拠点で開催
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2019年5月に東京で開催（ナショナルスタッフ13名、国内4名参加）



【Global Staff Meeting 参加者と本社役職員】

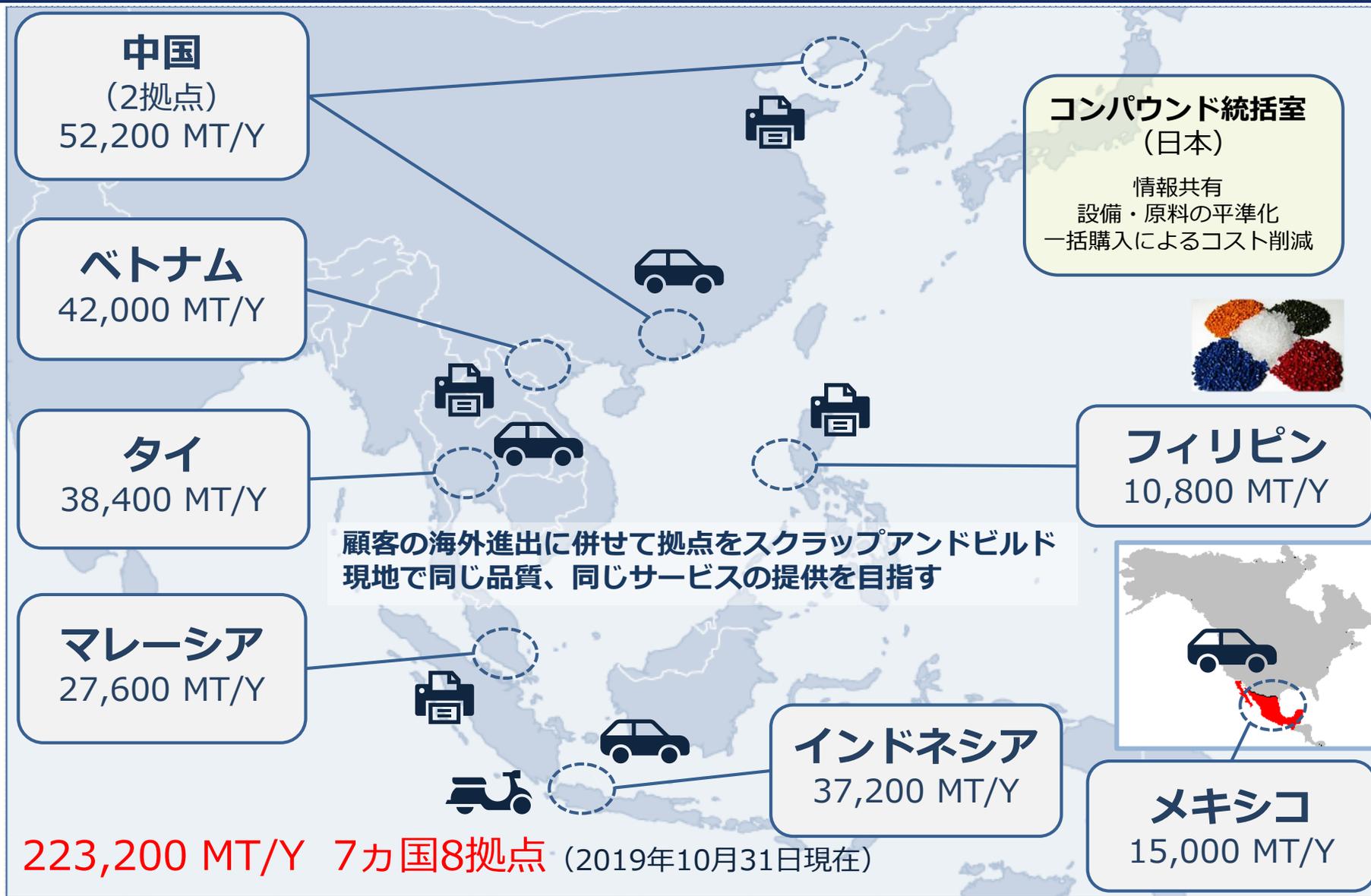
(注) 各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

【参考】1株当たりの当期純利益



(注) 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

【参考】樹脂コンパウンドの年間生産能力



【参考】 会社概要

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号
従業員数	644名〔連結4,263名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	19,206名
大株主の状況 (持株比率上位3 株主と持株比率)	住友化学株式会社 22.8% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 3.6% 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 3.4 %

(注) 当社保有の自己株式数2,710,182株(ただし「株主給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式100,000株を除く)については、上記表の持株比率の計算から除外しています。

(2019年9月30日現在)

□ I R に関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 I R 企画部
TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410
E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。